

中学生の保護者のみなさまへ

1 反抗期を迎えたお子さんへの接し方

個人差はありますが、小学生頃から高校生にかけて、子供の体から大人の体へ向けての2次成長が始まります。この時期は身体的な成長だけでなく精神的にも大人へ向けて発達が見られ、思春期と呼ばれています。身体的な成長はつかみやすいですが、精神的な成長はわかりにくく、これが保護者の方々にとっては悩みの種となっていると思います。お子さんは一人の人としてのあるべき姿を徐々に自覚していくのですが、現実の自分との差に焦りや不安を感じたりします。また、理想的な人間像は描けますが、人には得手、不得手があります。身体的な特徴は自分ではどうしてもなく、それを認め自分らしさに自信をもって生きていけるようになるまでには、まだまだ時間がかかり、理想と現実との差にいら立ちを感じることもあるでしょう。そして、精神的な成長の中には親からの独立、親離れが始まり、これまでのような従順なお子さんから、親の干渉を嫌うようになってきます。このような表れが反抗期と呼ばれる所以でもあると思います。

さて、前段が長くなってしまいましたが、反抗期を迎えたお子さんへの接し方が、健全な成長を促すうえで大きなポイントとなってきます。反抗期だからと言って特別扱いはせずに、気になることや、正すべきことはきちんと伝えていく必要があるでしょう。ただし、親離れが始まっている時期ですから、過干渉は避けるべきでしょう。また、お子さんの様子や、食事の様子に気を配り、お子さんの変化をつかんでいくことが大切でしょう。

何か一言いえば二言も三言も反発が帰って来るので、気になることも言わずにそっとしておいたほうが波風が立たず、そのほうが平和だから我慢しておこうとか、反対にがみがみ言うことを聞くまで怒り続けたり、あるいは力に訴えて言うことを聞かせたりするのはかえってマイナスです。反抗期の子どもは大人に向けての成長中ですが、子どもらしい側面もお残しています。そっとしておくが続けば、親の愛情が無くなったのではないとか、親にかまってもらいたいという思いが強くなり、親の気を引くためにより強く反発したり、問題行動を起こしたりします。また、様々な要求を次から次へと出し、親がどこまで応じてくれるかを試そうとします。反対に、がみがみ言い続けたり、力で抑え込んだりしたりし続けると、強い反発心が生まれ、力で対抗したり、家出をしたりといった行動につながりかねません。さじ加減が難しいですが、お子さんの様子を見ながら、親離れの具合を考慮に入れて対応していくことが大切です。

2 進学問題への対応

次に、問題となるのは進学問題です。俗に言ういい高校へ入ってほしい、経済的に苦しいから公立高校へ入ってほしいと願うのは、親の願いだと思います。そのために、内申点を上げるためにこうしたらいい、ああしたらいいという都市伝説は数々あります、とにかく部活動には入っていたほうがいい、生徒会活動もやったほうがいいというようなものです。

まず、いい高校とはお子さんの特性とマッチし、お子さんを伸ばしてくれる高校ではないでしょうか。そして、合格が終点ではありません。入学してからが問題です。怒賀久下高校で何をしたかが、高校卒業後の進路に大きくかかわってきます。一般的には公

立高校は生徒の自主性を重んじ、私立高校は高校が敷いた路線に引っ張っていきます。また、それぞれの高校にはそれぞれの校風や特徴があります。どれがお子さんに合っているのかを見定めていくことが大切でしょう。

猛勉強を続けて入学した高校では、入学後も猛勉強を続ける必要があるかもしれません。部活動やその他の活動を行う余裕がなくなるかもしれません。ある程度の余力をもって入学した高校では、様々な活動ができるかもしれません。かといって余裕があり過ぎると、慢心が生まれ自己を伸ばすことができなくなるかもしれません。高校選びは難しい問題ですが、お子さんの特性や実力、家庭の経済状況等を考慮して、お子さんが頑張れる学校、伸ばしてくれるであろうと思える高校を選んでいきたいですね。

中学校での部活動や生徒会活動についてですが、部活動に入っていた、生徒会に入っていただけではプラスになりません。そこで何をしたかが問われます。したがって、入るか、入らないかを含めて、お子さんのやる気が一番重要でしょう。親の思いが強すぎお子さんの思いと食い違っていたら、頑張ろうと思っても頑張り切れなくなります。自分が選んだものなら頑張り切れる可能性が高くなります。部活動でなくても、ボランティア活動を毎日続けたり、あるいはクラブチームで頑張ったり、将来の夢に向けた活動を続けることもよいと思います。

3 様々な問題で困ったとき、心配な時は

中学生の時期は様々な心配事が生まれてくる可能性があります。問題行動、発達障害に伴う2次障害、いじめ問題、友達が変わった等々です。中学校になると小学校の時仲の良かった友達と離れ、部活動を中心とした仲間との交流が増えます。特に土日祝日の練習日程によって、これまでの友達と遊びたくても遊べない状況が生まれてきます。成長の過程で自分に合う友達とそうでない友達の選別が行われるかもしれません。部活動や一人一人の趣味や関心によって友達が変わってきます。成長の早い子どもから、その傾向は見られます。成長がゆっくりしている子どもは、これまで仲の良かった友達が離れていくような気がして不安感を感じると思いますが、それを家庭で支えてあげてください。

友達の再編ならいいですが、それがいじめによるものならほっておけません。お子さんが相談してくれれば早めに手を打てるでしょうが、親に心配をかけたくないと考え黙っていることもあるでしょう。そこで、前述したように、お子さんの様子や、食事の様子に気を配り、お子さんの変化をつかんでいくことが重要になってきます。教育界を上げていじめの撲滅に取り組んでいますが、自殺の道を選ぶ中高校生も後を絶ちません。死んでしまってから、原因を探ったり、学校や加害者を責めたりしても手遅れです。自殺の道を選ぶまでに、お子さんの変化を見取り、手を打っていくことが重要でしょう。

相談先としては、まずは学校でしょう。スクールカウンセラーや学級担任、学年主任、生徒指導主事、部活動顧問等様々な相談相手があります。お子さんが気を許せる、信頼できる職員に相談をかけてみましょう。あるいは、親が旧知の教員でもいいでしょう。いじめの問題はなかなか解決しにくい問題ですので、お子さんの心のケアを含めて島田市の教育センターに相談するのも一つの手です。とにかく、最悪の事態にならないようお子さんを支え、励ましていきましょう。

最後になりますが、問題行動、発達障害やその2次障害等々の問題についても、早め

早めに相談をかけ、対応していくことが大切です。後になればなるほど、大きな問題になり解決できない問題になっていきます。親の恥と考えずに、お子さんのために相談をかけましょう。相談先は、いじめ問題の相談先と同じです。

最後に、中学生になると自己の行動に対する責任も大きくなってきます。一般的には、入学したての頃は 40～50%位ですが、卒業期には 70～80%位が自己責任となります。家庭においても自己責任能力を徐々に高めていくよう指導していくことが大切です。それが自立へ向けての、健全な成長へつながっていくと思います。